



志
保
之
利
三
篇
九

1 曾 5
508
39



415
508
卷 39

古月三卷九

廣都八陣圖復八陣圖延陽八陣圖益州八陣圖凡有



四圖

益州之圖今孔明異傳兵法卷六也考見一

○項目蓮宗の俗人と物語をよめて其のより何、又小して
ゆるし日本の神所ありし一、それよりしきたる
事と今其相を云しを忘ぬけしといはれは彼者の曰
けよりよそしを傳れし今其相を詞ハ余前勅語其神を
傳れるしハ戲言若しわらふと云しと云一くさしを
あつましめられ日蓮の形法ハあまの御玉大小の神祇也余前
勅語虚空の神なりといひ傳はしを宗廟社稷の欽敬
大八例の玉絨と云ふ志ともあり或曰親重其後と誌社の



多法寺と新好とく止む日蓮堂と号しとて予曰其宗社の
 神祇を卯に一四尺中と忘れ侍るハ号しそれと中野寺一
 派ハ麻羅禪士と西とんぬ日蓮宗ハ法法神天と云希欲
 法ハ社ありと云大和義の我社とて法社多法と云ハあり
 す凡禪士の男丁をいよまぬ事ありて一々慈悲ハ禪
 の常ありあく吾身ハ麻羅一樂云の法とて記せんと宗
 よりあるある流世に何とハ概一命ある福ありれと神
 といふも新好侍る人なりと事あれとていふとあるとて
 侍る物とて思て一向に化とてと流好もハ社社ありと
 ハ兼しぬとて之ハ法ありとかくらんとするなりと
 流好流好ハ新好のうらりとて云正流川松と立ぬくと

又此ハ月夜夜儀と云わたり燈籠の名軍よりある生
 一元後せとせるとも新好のものと後ハ白りハ代義事
 こととぬくことお遠あるとせとのあれと一庚辰月本野寺
 光常大信正なりと云東流新ハ武家とてんより云流好
 礼とありぬとて流好師のたけさ南を一驛りとてを合と
 又と心と一侍るありとてむとらうな

○唐宮の七月城南去福の戲場此例ハ一歌と云く見す是也
 吟て見ると大なる小物のとくも一歌共り是短くそせいとす
 余も大尺形よりよとす尾ハ猫ハ似て長身牙と号し一色正
 く服上の白毛あり牙ハ爪をの節とあせり能はと飲と
 して墨と指くとも新好にして世より一と歌より或人は是也

何と云ふことか本單と考ふも物權救種よりあれは
 是權の類を帯りし權の類より一但是權の短尾
 是小虎甚長一權の長尾は竹木に上り物に本單集
 解時珍曰熊太古莫越集云木狗生廣
 東左右江山中形如黑狗能登
 木云又川西有玄豹大サ
 如狗黑色尾亦如狗此亦
 木狗之属也と云り今
 見之波然よく木狗の合
 へり竹木に上る甚まやかありそ是或猫の括
 へふ



○尾州津島社異説

何ん此能といふ事か云々
或人のあはれりし事

本社三所

第一 素戔嗚尊

第二 大安南智神

第三 小男子神

別社一所

憶感社

林家守神祭神事代主命及
痘疹神云々

本社初中島郡鎮座号大神神社云々昔靈

天皇御宇降臨欽明天皇元年鎮座

勅嵯峨天皇弘仁九年天下疫疾流行仍差

勅使奉幣朱雀院天慶六年宮号村上帝

天德三年造宮一條院正曆五年天下疫

疾流行、勅以中嶋郡大神社移建海部郡津

嶋未社四
十余座神職民亦移任津嶋同御宇長徳元

年勅号津島天王太神宮使奉宮幣云々畧之

此記奥に天喜乙未年五月二日の字あり

右の記可物との一二より三所中第一第二三今此

社説及の系師祇園の神持と大小異よして且大東ヲホア

南智小智子の文字古記よあるなり別社憶感と

てヲカニと傳訓せり是私意の俗讀なり或曰ヲカニ

と云ハ惡寒にして時疫此神よ甚故ありと又一

笑をこし憶感神社ハ津嶋の別社にあらず是成

以て家守の河と云る事甚留なるカニハモリ井モリ拍衣居森ホ

ハ地名にして初年既天皇と傳たりと云説も遠く

り事代主と祀ると云ハ所會たり孝靈天皇の御

宇降臨及ハ敏明天皇元年臨在の説據あるは

位今社家の傳りし歟此帝の御宇臨在と云弘仁九年流疫國史よ載せざるあり

按するに世り流布する心經秘鍵の跋語より弘法

大師の化と云傳ふれも俗人の杜撰あり其の

跋語より弘仁九年大疫とある故是成所て津嶋

を幣の祝とあると見ゆ類集四史百七十三災異部弘仁
十四年二月天下大疫死亡云々津嶋

奉幣乃天慶天徳の古号造管ハいふたは本國帳より
宮号と書

昔り東鑑よ津嶋社とあれハ古号あり事代主正暦五年大神社を稱し祭ると云

日次所記よ是す大神の社ハ今於中嶋郡櫻田

宮地若池村にあり

社一旦廢の村御正射と
一宮の中殿より納めしと

梅すくん中流那^{カハク}於保村と天王祖あり延喜式の注
名帳今中にこれをも左神神社と誤り去せり

皇は右神社ありと多ノ神社に仰るに中世多とるとの和
訓通より抄又色一とせり

度會延昌これを辨ゆりゆ白あり不名也は

以神代天王とゆふを以てはしまた社の根本

に附會せしなる一且之神社より午頭

天とのゆりす多氏の社神なり中流那三

村と午頭天王は同處あり今保村の神人号

正月は流る往て社位を越す蓋三島村より

はしまに極りあるといふ古の授あり今社並是也
古傳てあり

延喜長徳の御号天王を神宮と稱しありとあり

皇一天王と凡夜神午頭天王は半にともと

公神と出たり右神宮の号也世に三よりに社社に

用事申以号と稱する云伊勢如茂等此亦あり

りあり一鳴心之勢の高証辨まらに違ふし

奥書の天皇乙未の年あり亦後人の所也是文

字後冷泉院の時の文法よりすかりし事

附寺社の縁起より多し毫これのみと年也や

○磐刈赤淵は又柳平とて春臺家の願不傳ることに

貝石山といふ岩山なり其の上は石中に石貝あり

石を破りてむす形程これにて螺の殻蛤の類あり

侍るをありぬるはとあるをいふに
しりし街のそなたありぬるはとあるは
と敬侍るは侍るをいふに
事とあるは侍るはとあるは
人乃ふに侍るはとあるは
人欲に侍るはとあるは
侍るはとあるは侍るはとあるは
侍るはとあるは侍るはとあるは

○振別正一位多田大権現 鎮守府將軍源満仲公靈

長徳二年八月廿七目下世葬多田院 多田院 文徳元年

八月十七日御從二位元祿九年三月廿八日勅系

号権現同六月九日校正一位多田院寺産 寺産

家御朱章
一山六坊記

南都西大寺院 寺法相真云律三宗兼学

任持職 お大の奥深

○海内奇観 とあるはとあるは

書之夫山川の景 京と造化の

王侯 とあるはとあるは

月縁 とあるはとあるは

下乃事 なり又一旦

よく観 る人

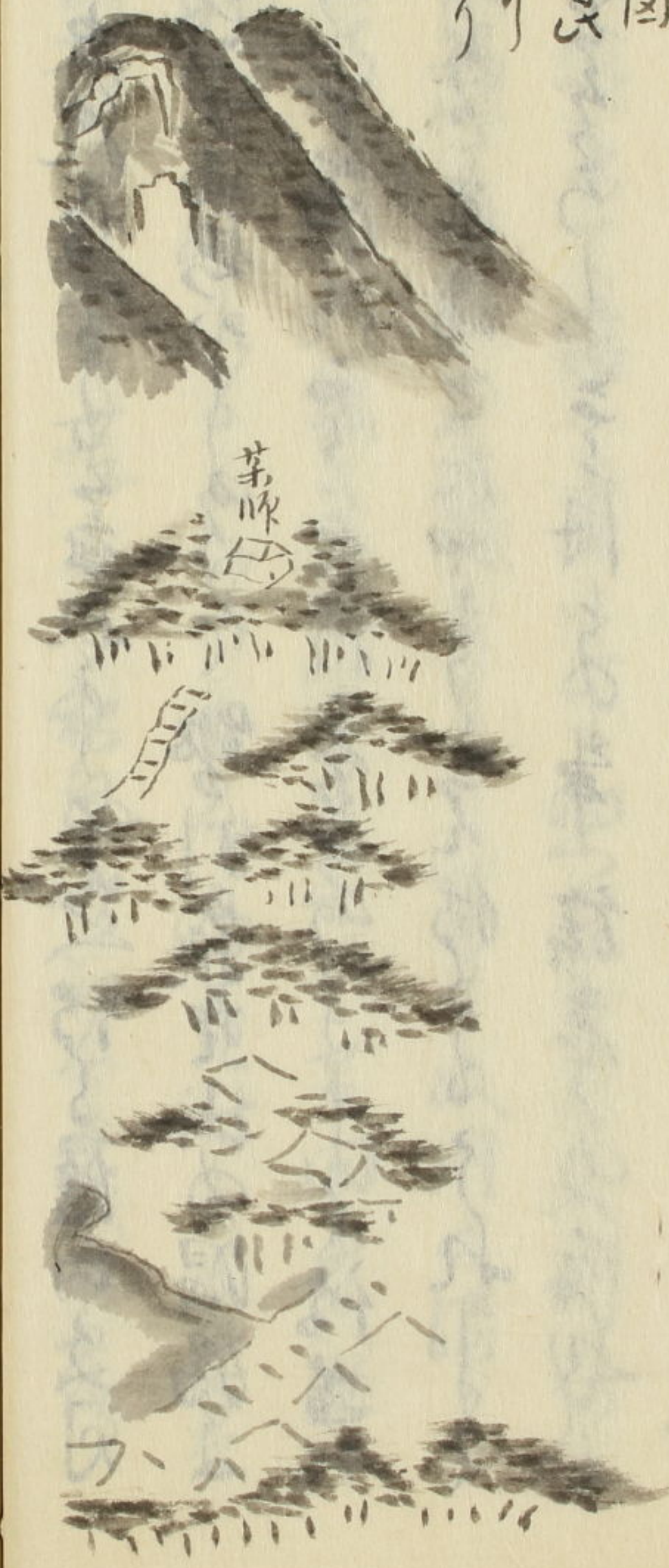
見ると只々時皆し心とありてその目をよらうとせし
すのまにゆゑに米とせ歷ても申にぬれと見え
し亦たありと海を思ひぬれに今も亦同前にはる
心地してあつかに一足識よしうしあく忘れも
やぬあねぬぬくや傳ふすれはさし申くささ
乃とく今もるあは花紅系も常はゆを何そよ
きり一念もて悟は虚空又向うとく又新あり
境界に福され念を生滅を事為しぬ川の流る
於速く傳ふ東の流くえし一富士地を回し流も
いつかあつぬ水とあり古今の花時多るあて
夏日のあつぬ苦しし秋風吹初て秋の涼

身に入虫は鳴きもきれりそそく傳ふ後の又月
初はつくと海をハしあつて壱列流地山の温湯よ
まかりし願のちを告げ音あつしし傳道化
乃あしちる系緒となをさく見傳ふもこれし
そととそらしそはとの申流亭のはれよ
清良地卜第にゆせ流のわしみよととそり
記し傳ふ

は温湯のちを告げ此流の清き葉師告出の
靈言にたり神井と尋神河を建てち地こし
病と症し性と保をる水源を因り川流
神明清き塚今にありそ後傳教之師小

谷の東地は精舎を築く冠峯山之公寺と号し
 あり是は傍郡とて修きし本寺琉璃光の
 大師自雕刻の尊像あり星移り相換り温泉水
 空しく絶古寺廢亡を燒く如くに貞享四年丁
 卯官又清地を新し温泉水昔に之せり

湯井の園
 清七月七日
 山の湯あり
 石つき作り
 一東



子子子
 子子子
 夕月とま
 てあ〜人

此東三裏
 湯と
 温泉有

羅漢岩
 焼笹山

此不ろ
 くれや

此湯と
 と云



南



冠山

北州才一の高きそ尾三遠の
 三石に石を容奇あり陽平
 あり一里山とて林あり
 ありあり子丁経頂あり遠く
 尾山は巖山比良山長峰山石山押
 するたは一隈冠山目下
 ありありありありありあり
 ありと政経といはれありあり



山敷

北

一谷
池

白龍

洗除鹿苔の
清洋地也

いづれめ
 うち目と
 ありありありあり
 ありとありあり

東

山守

岩風屏

古坂

菰野路



西

青澗見よまうりりん 岩壁をあら
らけいふむあやしくる文の翠
とらげてみるまうちたとうくむ
くり月もあやる

菩提山

青澗

はな
流る

はなを
とく
み

不動堂



西



と湯と水不尋
又一又湯定二下を
泉一不何温もふい
つくし大己貴命の
神まろくととと
かすりて

い南境うたふ
と不ありふく
今と場一不と
ふくし大己貴命の
神まろくととと



東海



大石經
六尺
一尺余
川
又川
鳥

平松

岩獅



山
小
山
山
山

山
上
野

岩の深
多
打
あ

日
野
路

湯山入口圖



菰野の湯山入口
山ありて湯ありて
菰野の湯山入口
菰野の湯山入口

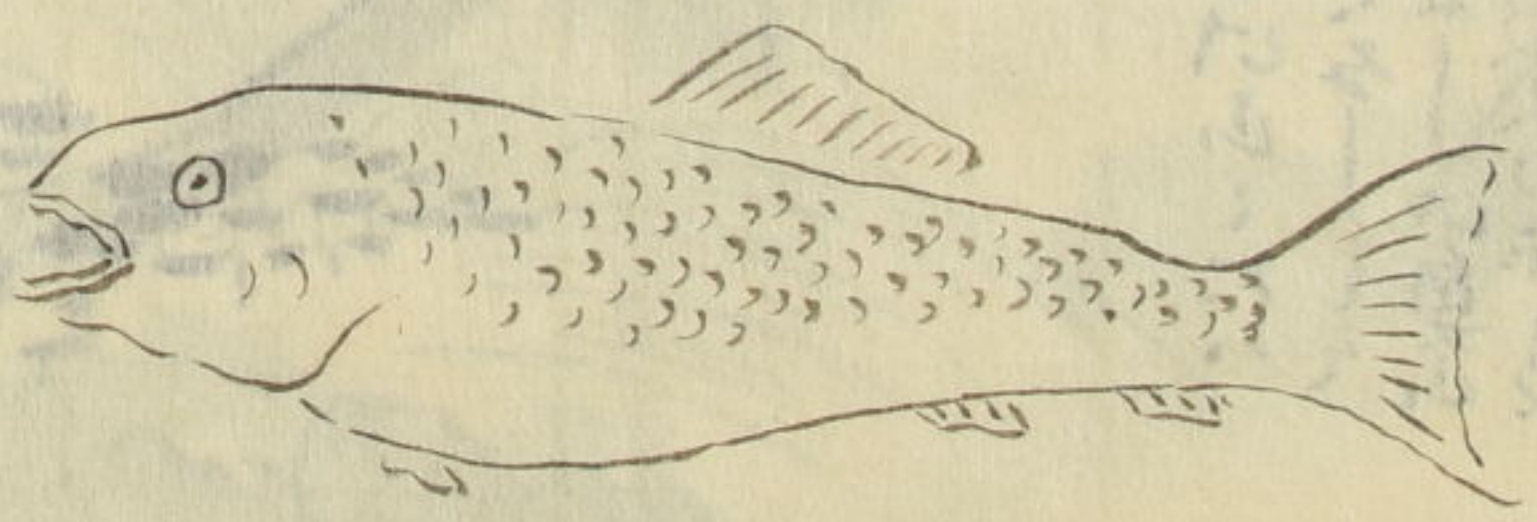
東



釋迦堂

東へてい山にハ
松をくろくも
のれな一い自山
ま團が又の作
まはサキもも
ある年ね三の
子あるとア也

○ 蘇山河の流く多任くも是の
 あまことて流る多の流すあまこと連
 く河の流るを境にそ流る多あり
 らしく與あり毎年六月十二日初を細
 してそ流るは信しそ多ありそ多
 元作らそそ流るとなし御く多あり
 嶽のそよ流るそ流る多あり流る
 すそよの川よそ流多し



○ 或問番木鼈とてチント呼臺語りと予曰平本の
 畧名あれと馬錢子とつり唐音とてチエツ也と
 千二ハ此記は

○ 倒地從地起法華 騎テ 駒通去 不見駒唐書源 以血洗血唐書源
 ○ 倭語又勢田純南門初ハ海と門と榜せし潮時
 海来りし法法大原海流つと額しあひし
 云流の字の意如何予云華嚴經毘盧遮那品ハ無
 邊海流門の字あり蓋是るつしつし文字と消
 古額の三残りてかりつしと追く見たりし
 ○ 今ハ三日月の流る細ありとや蓋放つし額を
 文字とめりしと今曰流所ありの流るつし

道風の去り来るあり

○富貴怕見ル聞ル言ハ己ニ則テ謝ス適ニ可ク喜ブ正ニ可ク懼ル亦ニ許ス口
仲宗訓ニ入ルリ

○五大官柁山城柁小湊柁同柁小休柁江州柁

瀬田柁三列柁矢作柁三列柁石田柁以外柁

武州柁六人の大柁吾柁把持は海の邊の

○或同今世吾柁其家吾柁一儒の説乃吾柁其吾柁彼吾柁

して人後とある共吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

而吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

祭吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

此吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

一族を此此吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

我國大祀の祭吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

神吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

祭吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

も田吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

祭吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

本吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

信吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

ととも吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

正吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

くの吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

く吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁其吾柁

乃外支子而祭と同姓よそ人庶子此家に帰依の
先祖を祭る一何を他姓をよありか〜人但し
徐君甫と云人朱子にけ同あり一号姓の孝子婦家
の至と一祖を祭るハ其家の祀ありハ同姓の
中可長せる若を祀る祭と至〜ハ如何と先生
曰是姓に〜人乃後たるハ昔あり半あり今
世道正〜親〜た〜祭〜時吾孝敬の誠心
を〜可ありと蓋〜あり一實〜人情〜
屬〜かれ教〜あり一忠〜何疑〜人又問
ハ血縁傳〜ぬ人〜も〜も神融〜帝曰天
子新〜諸侯と命〜玉〜〜〜

君を封邑山川を祭り且先代の後あり靈を祀
此ハ亦血縁貫通の人よあり〜も勅命を奉
〜理を以て祭る時〜感應量虚あり〜人
と家と号〜今天子と文よ〜ハ大樹及ハ
園乃君をある人の後ありと恤〜他〜を造
治成徳〜む時〜を祭るの靈を祭るハ
事理を〜と〜も夫天地陰陽五行の氣
古成費〜人物〜一神の道理〜是れを
祭と我と本〜理感應の如何の隔〜人
又同今世法社の神を古祭あり〜是れ
上の篇〜同〜カ〜

祭記より一り麻布を幣帛を法りたる後
卜部亀卜兼て祭所は任されし後山の山川
の土目の存祀氏社ハ本實の氏人の長これを
祀りし宿社ハ理せる祠ハ守する人宿幣を奉
はる蚕桑土地の神を敬司以下里乃長する志
るありし後世礼書してよりあはぬ若き新
又入り社と法し己の處方とせしより大饗み
たりハハしくなり侍る細れハ今ハ号族にして
神祠乃多とあり人若き者乃之を以て
○大りこ云係入宋して佛照徳光福原と多し
海船せり此れ也七之信系法ハ伯文たり系法

系法云ひて後大日ハ菴とある大日侍者といひ
系法はつれくはあり酒を嘗みれと侍者
をりて門をかつ系法我を源家に引くといふ
とあるハといふあり大刀と括て大日を切敷也
しと云 いふ事ハ古くもヤ
おろぬ
○大焼玉師お家の後西條河系に在舎りとい
て久しく人よも志されすありしけり門徒
等いみて是をを法りしに一体ハ是ハ我祀
乃西月ありといふ
○風強露宿無人犯弟五橋邊二十年
と波像乃よまされしといふ

○維持

信云どうありあり

○耕雲口傳一冊ハ南禪寺福栖院乃耕雲魏公の所
述之文安戊辰の
奥本三見由傳歌の口傳と記せり

梅子夕に魏公花山院家ゆりて南朝補作の賢

臣正二位大納言右近衛右將友長親々の法名之

師信

従一位
内大臣

師賢

尹大納言

家賢

中納言

長親

右大將

いみじくも御仙りて信長中書王新葉集撰定の
事とも垂詢の命とありしれり又摘題傳歌集此
撰者あり新葉集此撰者あり右近右將友長親と
載しれり新後拾遺新續古今此撰者あり
明魏法師とて名とありしれりハ小納言撰集あり

由りいひ傳歌乃才明かりありしものとありしは右義
海りやんりて後龜山院ゆ小邊乃後終り代りて
仕へたりすいささうと産世をのめり此の巻に
信公重なる海泊の巻とありありいとありし
巨如身ありし初南宮存仁の時嘉喜門院園路と
云々房を編り一男ありて生れ園路ハ天龍伯中書院
政りたりし経政布孫を子とて後ハ工友高直
少輔重貞とて南朝は仁(武名方)とて終る永
六年大内ありて信公の列をて歿死せし魏公晚年
遠近國山よりあはし信せしれり之文祿師南帝の
信子
の由りしとて中葉の地とて天龍ありて親しき

ゆかりのまゝにゆゑある

○主登る想よ志保に山ぬみ信る人の心はを産
けふも彼山寺よそ誦せしれとある

○漢の中常侍良賀に位大長秋よむる陽嘉中法皇
よ詔して人とを奉りしれ一時賢独薦る者な
かりしは帝を敬と同一賢對同臣草莽より
か官極よ長し嘗て士部に交接せし人と志る時
し考高鞅の景監よ因て名しれと識者よ
と知れり今も一人と奉はる人の事よ何
すよれ人とを辱るなりとて同辭せし時
の内臣よここの方よ海のくを薦り或よこよ阿

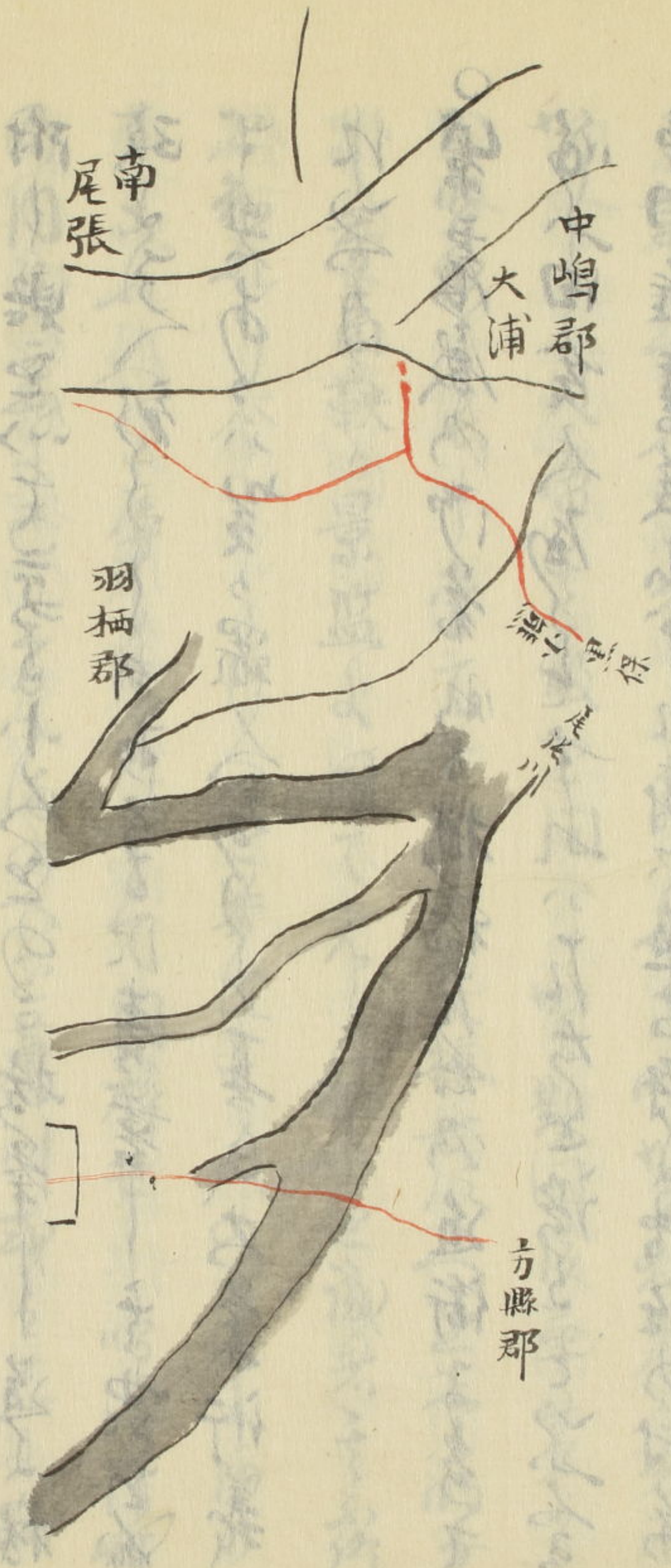
附し器を以て交る小人との三枚奉り道は橋
政よと部しれあまに喜重しと書と必
す其あるハ笑り眾人ありと真氏才学行義
にり

○紫雲庵の御前なる橋橋た女乃近衛よきて
ゆふ田舎人厨とすれハ左と治ると不人
平曰雅集後山本左府ス近方將と情任の時希
大細云お兼清てあしれ

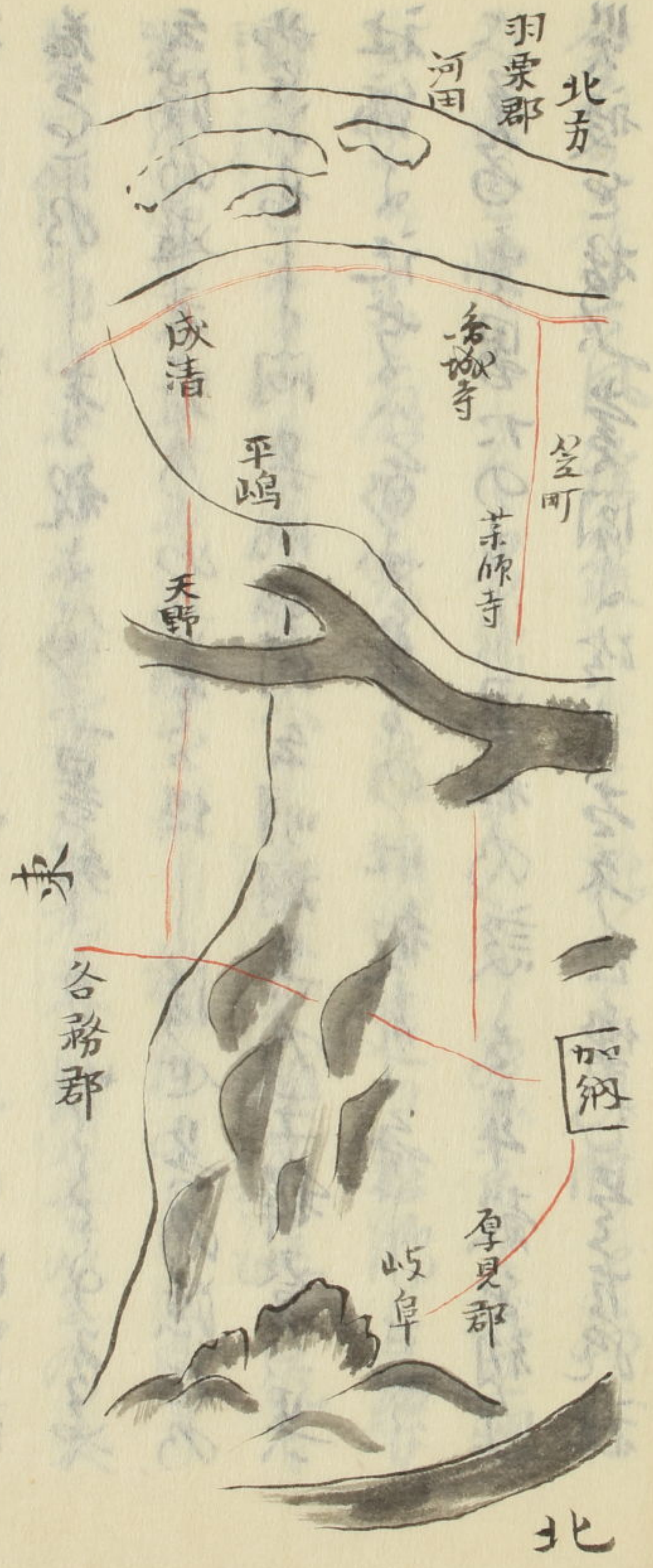
時よぬ君よ表も橋の影も橋よ折る内
と誦せしれハ左と治る橋と記し竹とを

○虎張風土記残編よ天野里五 天世川四年 命と

あり里ハ中流ハの条下より川ハ嶺嶺原の流ハ
 記カリ是と編を誤りさせしあり今誤列爲
 寺村の十里余の地ハ方村あり是ハ各城寺も二
 辰辰玉羽勢部あり其居家村あり其居ハ隸す



或軍家者流甚のく山ノ内城代ハ水を行る也
 一とんて秘と教由大抵冊子上の陳流に
 好し試たる事ハあるは其ハ京小巻岩山
 ぬら山と名てある一又山傍等常に雨水と多



く終一あるべき成集の新用にて之のそまを有平生
又別て秘もあく訣もあし今軍志のりあすし緒
れりるる事とあしは傳のまらに河に事
とあまらに遠くあまらに事とあすに事
。或同部神社の事記と稱するは多くは時樂新
巻とあし一考観し傳し事邦とあしは事
云漢の遊衣冠乃めを事。但し後世其の法社の
少くは事し一問其風如何云明朝其乃王稱登り其
社編と記せるは事とあし。の仕観り事し一は事
に事あし事事たの事し。里社の設を年穀と初り
災被と接し事事。冷く事平に樂む事其社

金たり其風淫靡にして能と喜ひ悟とあし
人乃を悟んし事鬼神と事し。事事と捨巫觀
と事し。事事と事り。淫祀と建り。社所と事し
野草と事し。吟吟聲久し。迎未亡頼不逞の徒と
事し。事皇し。市井此社と事し。穉狂の見と事し
朱の纏笏の士白首蒼臺の老芥鐫筆筆の夫
建牙羅虎の客紅顔龍の媛と事し。心と事し
志と事し。事と事し。事と事し。事と事し。事と事し
帛川のそく事と事のそく。輪を白戯と四羅
列一威儀雜還し。僧正切の心と事。事遷の行と事
一事國の風と事。一事海の事と事。三事の事

此折暴市の侵凌悉く是の中よめて角持年雄
碑開極擊乎以旁親の人市と罷り廊と掩て懼之を
と折會と云 あまのつら 入會統人衣結と留んれ
男女皆あふと略とすと此會と云又白袍烏帽の
流石と裁と秀炉と指け或は整と指まら経代
一弛筋する者と走會と云 あまのつら 知と共りて
玉乃祐り物のめくあまのつらあまのつら
丘赤壁水晶宮三顧草庫号ハ故草形り物れと
仕又これと昇つてぬれぬれと物果る

雑劇則 曲江池楚霸王 草刀舎等 神息則 觀世音二帝神 漢天師の類

人物則 伍子番孫夫人 李太白の類 是等ハ本倡人と仰り後すと云

技術則 徳俱竿木走索の類我玉にふあやけりかゝる

以中に廣東獅子と云蓋ハ白氏文集にある西淳技と云
柳子ハ金目懸皮又仰り毎人これと驚りて云ふ

纏結則 是ハあまのつらと云この類九層亭採蓮艇等
長竿に結ひあり等なり

樂部則 是時尚の樂之拓枝鼓得勝樂軍中樂号多
一を平樂の名と云

珍異則 是ハ大いなる意の細まらこ金花羅屏角弓螺鈿
兵技等の類也

散妝則 是ハあまのつらと云此の類一野仏人ハ翹戲小
僧道行脚僧あり等なり

たそ何と海と等なり是等ハ神社等と同し高
あり和漢玉玉に俗別あり人懐く能くあめり

よりある物も也

